



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 ページ数 6 定価 (税込) 7 その他

“上級学習者のための4技能統合型日本語・日本事情教材”

『日本語・日本事情リソース型総合教材 過渡期の「日本」を考える』

データ

1 三牧陽子、村岡貴子、伊藤博子 2 凡人社 (〒102 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL:03-3263-3959 FAX:03-3470-2129) 3 1997年5月30日 4 89358-375-15 5 本文73ページ リソースブック72ページ 6 2,100円

どんな学習者のための教材か

日本語のレベルが上級以上の学習者を対象に作成された教材です。大学の講義・ゼミ・研究会などで、話を聞き、資料を読み、討議し、発表ができるようになることを目標としています。

どんな内容・構成か

本編と資料編(「リソースブック」)の二部構成になっています。本編は1課から10課まであります。ひとつの課は、「重要語句」「準備の窓」「本文」「読解の窓」「語彙・表現の窓」「会話の窓」「作文の窓」という順に構成されています。

10課分のテーマは、「日本人の『働き方』」「若者の選択」「家族とは」「日本人の意識」「揺れる日本語」「『食』事情」「人間都市」「国際社会における日本」「真の豊かさ」「共生を求めて」です。

リソースブックにはテーマに対応した3~6点の文章、資料、統計が載っています。

まず、文章・資料は、論説文、説明文、体験談、対談記事、随筆などで、文章の多様なスタイルを学ぶことができます。

海外でどのように使うか

本書はテーマ中心のモジュール型かつ4技能統合型教材なので、いろいろな使い方ができます(ただし、本書には語彙リストがついていないので、海外で使用する場合には、翻訳付語彙リストの作成が必要になると思います)。

たとえば次のような使い方があります。上級クラスの日本語学習用教材として「重要語句」から「作文の窓」まで、各課の構成どおりに教室活動を行っていかば、4技能を総合的・統合的に学習できます。

また、読解用に使う場合には「会話の窓」「作文の窓」を省略したり、簡略化するといいでしょ。

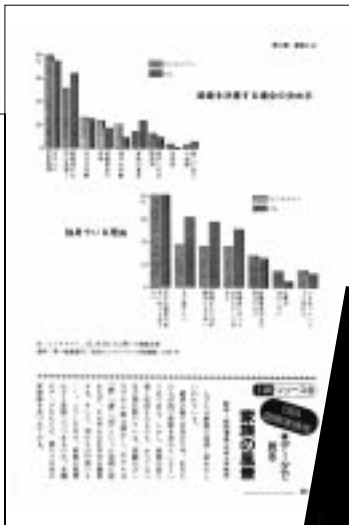
現代日本事情教材としてテーマが現代日本社会・日本人の意識や行動に関するものなので、大学・大学院の日本語科、日本研究科などで、日本事情用教材として使うことができます。

ディベートなどの資料としてディベートやプロジェクトワークを授業の中で行う場合には、素材や基礎資料として使うことができます。

教師の参考資料として読解の素材、上級クラスにおける教室活動のアイデアなどが得られます。

第3課用リソースの一部 (p.14)

第3課・本文の一部 (p.17)



『JAPANESE 漢太郎』

データ

1 マッコーリ大学、富士通オーストラリア企画制作  
2 富士通ラーニングメディア  
(〒144 東京都大田区新蒲田 1-17-25 / TEL:0120-55-9031 FAX:03-3730-9624 )  
3 vol.1 1995年4月 vol.2, vol.3 1997年1月  
610,290円

最近、語学学習へのCD-ROMの利用が進んでいます。この教材もその試みの一つです。取り上げられているのは漢字です。普通は漢字学習というと、単調な練習を想像するかもしれませんが、しかしこの教材では、静止画や動画、音声(自然な発音、速度)、ゲーム形式のクイズを多く用いて、楽しく学べるよう考えられています。

ではどのような人が、これで勉強できるでしょうか。利用者は、少なくともかなは全て知っていることが必要です。また練習問題にはやや長い文章も出てきます。難しい漢字の熟語も出てきます。従って、全くの初級者は全部を理解することは難しいでしょう。説明は英語です。

次に、この教材の内容を紹介しましょう。教材は、3枚のCD-ROMで構成されています。学習する漢字は、初級を中心にしています。数は、1巻200字、2巻200字、3巻300字です。

各巻の内容は、次の通りです。1巻目

は、最初に画面を開くと、図1のように、基本として次の項目が出てきます。

Discoverer、Memory、Match、Reading、Stories。これらは、1巻から3巻までほぼ共通した項目となります。2巻、3巻のこれ以外の共通項目は、Grammarです。

一方、各巻で個別の項目は、次の通りです。1巻では次の項目があります。Calendar、Clock、Numbers。これらはそれぞれ、年月日、時間、数字に関する漢字を学習する項目です。

2巻では、Open Sesame、Helpという項目があります。

3巻では、Bingo、Ad. Storyという項目があります。

各項目の内容はどうなっているのでしょうか。は、この教材の基礎となる部分です。ここではある漢字について、次のような情報が与えられます。1巻では、音読み、訓読み、意味(英語)用例(英語、音声付き)漢字と絵を関連づけた図、絵から漢字への変化を示す動画、漢字の記憶のために連想を利用した説明。

2、3巻では、更に図2のように、画数、偏と旁などの文字構造の型の表示、色分けによる文字構造の表示、筆順(動画)ネルソンの漢字辞典の整理番号があります。

からは、応用の部分です。まず

は、トランプのコンセントレーション形式のゲームです。漢字と絵の2種類のカードを合わせます。

はクイズです。漢字と絵と読みの3種類のカード合わせです。

もクイズです。1漢字に3種類の読みが表示され、どれが正解か当てます。

は、長文の読解です。各課の学習漢字については、字をクリックすると読みと英語訳が表示されます。他に質問と長文の英語の要約もあります。

は練習問題です。図3のように、絵と穴があいた単文が表示され、そこに適切な語を入れます。多くは助詞です。

2巻は、英語の単語の下に窓があり、扉を開くと2つの漢字熟語が出ます。どちらが、英語と合っているか当てます。

3巻は、9枚の漢字カードとその下に並べられた漢字を組み合わせて、熟語を作るゲームです。これは難しいです。

3巻は、長文の読解です。

ゲームやクイズは、終わった後でかかった時間と正答率、誤答率が示されます。学習者はこの漢字で、自分の力がかかります。ゲームを楽しみながら自然に漢字を覚えられるよう工夫されています。皆様も挑戦してみてください。

図1



vol.1 起動時の画面

図2



vol.2 Discoverer

図3



vol.2 Grammer

pp.16 ~ 19は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

前田綱紀、坪山由美子、百瀬侑子、木山登茂子、木谷直之、高偉建

“いろいろな練習が楽しくできるカード教材”

『くもんのせいかつ図鑑カード (たべものカード、くだものカード、のりものカード、マーク標識カード)』

データ

1 くもん出版 2 くもん出版 (〒102 東京都千代田区富士見1-12-21 BR 九段1 / TEL:03-3234-4004 FAX:03-3234-4483) 3 1996年7月 44-7743-0046-25 全4セット 各セット31枚 6各セット945円

『くもんのせいかつ図鑑カード』は、日本の日常生活でよく見かける物を約12×18センチのカラーの絵カードにしたものです。「たべもの」「くだもの やさい」「のりもの」「マーク標識」の四つのセットで構成されていて、各セットに31枚の絵カードがあります。一枚の絵カードの裏には、絵にかかれた物の名前が太い字のひらがなカタカナで書いてあります。名前の下には、100字ぐらいの説明と挿し絵があります。説明は漢字とかなで書かれていますが、漢字にはふ

りがながついています。たとえば、「たべものカード」では「おにぎり」「カレーライス」「ギョーザ」などが取り上げられていて、裏には食べ方や作り方の説明があります。

このカードは日本人の子どものために作られた物ですが、外国人のための日本語のクラスでもいろいろな使い方ができるでしょう。カードは持ちやすいサイズ

で、絵もはっきりしているの、20人ぐらゐのクラスサイズなら、単語や文字や文型の勉強をするときにも使えます。「～で行きます」や「～は～よりはよいです」などの文型も「のりものカード」を見ながら練習すると、わかりやすくなるでしょう。また、4、5人のグループでカルタのようなゲームをしたり、絵を見ながら文を作る練習をするのにも使えます。



おにぎりカードの裏表



“初級文型が使えるようになるためのドリルとタスク”

『会話のにほんご ドリル&タスク』

データ

1 佐々木瑞枝、門倉正美 2 ジャパンタイムズ (〒108 東京都港区芝浦4-5-4 / TEL:03-3453-2013 FAX:03-3453-8023) 3 1997年7月 44-7890-0884-35 197ページ 62,415円

この教材は、初級後半から中級前半レベルの学習者を対象にしています。本冊「会話のにほんご」の内容に合わせて、学習者がふだんの会話の中で、日本語の初級文型をうまく使えるようになるには、どのようなドリルやタスクをしたらいいかを考えて作られたワークブックです。

取り上げられている学習項目は、「て形」「自動詞/他動詞」「受身形」「使役形」「授受動詞(あげる/くれる/もらうなど)」「様態・推量の表現(そうだ/ようだなど)」「条件文(と/たら/ば/

なら)」「敬語」「形式名詞(こと/わけ/ところなど)」などで、どれも外国人の日本語学習者にとって、意味や用法、使い分けが難しいものです。

この本の構成は、各課ごとに、「イラストによる文法確認」「応答バリエーション」「内容質問」「文法確認ドリル」「タスク」となっています。また、数課ごとに「コラム」があって、重要な文法項目や「男ことば・女ことば」「擬音語・擬態語の効果」など会話表現の大切なポイントを補足的に説明しています。上の、は、本冊「会話のにほんご」のダイアログや会話例の内容に関するドリルです。また、は、巻末に解答が付いていますので、教室活動としてだけでなく、学習者の自習用教材としても利用できます。

海外で日本語を勉強している学習者

は、毎日の生活の中で自分から進んで日本語を使うチャンスがあまりありません。ですから、教師は授業の中で実際の場面使えそうな、意味のあることを、できるだけたくさん学習者に日本語で話させたり、聞かせたり、読ませたり、書かせたりすることが大切になります。この教材の中には、学習者が積極的に楽しく授業に参加できる学習者中心の教室活動のヒントがいっぱい詰まっています。



(p.95)

“上級日本語の指導を考えるための参考書”

『上級日本語教育の方法』

データ

1 藤原雅憲、初山洋介 2 凡人社 (〒102 東京都千代田区平河町 1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL:03-3263-3959 FAX:03-3470-2129) 3 1997年5月20日 4 4-89358-374-3 5 321 ページ 6 3,360 円

上級日本語で教えなければならないことは何でしょうか。効果的な教え方は何でしょうか。

この本には、留学生を対象とした日本語集中コースで実施した上級日本語教育での教育内容と方法が、一つの試みとして提示されています。上級クラスでの教室活動の参考となるだけでなく、カリキュラム開発やコースデザインの設計の際の参考としても利用できます。

内容は、第1部「総合演習とその展開」、第2部「上級日本語教育の諸問題」に分かれています。

かれています。第1部は上級日本語教育に必要な、4技能を統合した総合学習の基本的な考え方とその具体的な指導の仕方についてです。日本事情や語彙指導にもふれています。第2部ではレポート・論文の作成などの教室活動、音声教育や非言語行動について述べています。学習者の日本語の分析や指導の結果の分析もまとめてあります。

例えば、第1部第2章「読解指導の視点と技法」では、上級日本語における読解とは何かを定義し、教材の選択及び教材作成、教授活動の実際、問題点などが、現場での授業をふまえて書かれています。教授理論を述べているだけでなく、実際に集中コースで扱った学習項目、使用した教材、上級学習者のかかえる学習上の問題点などをもとに解説しているの

にしやすいでしょう。

上級日本語では、新聞、雑誌などの生教材を利用することが多いですが、海外ではこれらの生教材を入手するのに制限があるかもしれません。しかし、インターネットから得られる情報などを活用し工夫すると、この本で述べられている方法を実践する際の助けになるのではない

(目次)

目次	1
第1部 総合演習とその展開	1
第1章 総合演習の意義と目的	1
第2章 読解指導の視点と技法	11
第3章 聴解指導の視点と技法	21
第4章 読解指導の実際	31
第5章 読解指導の問題点	41
第6章 読解指導の発展	51
第7章 読解指導のまとめ	61
第2部 上級日本語教育の諸問題	71
第8章 レポート・論文の作成	71
第9章 プレゼンテーションの実際	81
第10章 読解指導の実際	91
第11章 読解指導の問題点	101
第12章 読解指導の発展	111
第13章 読解指導のまとめ	121
索引	131
参考文献	141
あとがき	151

“日本のすべてをイラストで紹介する事典”

『バイリンガル・ブックス イラスト日本まるごと事典』

データ

1 インターナショナル・インターンシップ・プログラム 2 講談社インターナショナル (〒112 東京都文京区音羽 1-17-14 / TEL:03-3944-6492 FAX:03-3944-6323) 3 1997年5月8日 4 4-7700-2080-5 5 241 ページ 6 1,365 円

この本は、日本の自然、文化、政治、歴史などはもちろんのこと、着物の着方、花の生け方、米の炊き方、習字、俳句、折り紙、じゃんけん遊びなど、日本事情を分かりやすいイラストと簡潔な説明で紹介しています。

この本は日本人が海外で日本について紹介するとき使えるように作られました。海外で日本語を勉強する外国人のたちも使えます。また、説明には英訳もついています。

構成は、大きく四つの部分に分かれます。第1部は日本の国の概況で地形や気候や年中行事などの7トピック、第2部は日本人の生活で衣食住の12トピック、第3部は日本の文化で盆栽や俳句や折り紙などの40トピックで、第4部は今日の日本で教育や経済やマスコミなどの16トピックです。キーワードは全部で500余りもあり、巻末に索引があります。

イラストや統計資料で、現在の日本についても伝統的な日本についても様々な情報が示されていますから、日本語の勉強、日本事情の勉強に、きっと役に立つでしょう。また、漢字にふりがなはありませんが、イラストやデータは日本事情の授業にも使えます。

この本は「講談社バイリンガル・ブックス」という名前のシリーズの一冊として刊行されています。同シリーズの本と

しては、『日米比較・冠婚葬祭のマナー』『まんが日本昔ばなし』『ニッポン見聞録』『Japan クリッピング』『英語で読む日本国憲法』『英語で日本料理』『日本不思議発見』『英語で話す「日本の心」』『英語で話す「日本の謎」Q & A』『英語で読む日本史』『英語で話す「日本」Q & A』『英語で折り紙』などがあります。

(p.64)

